

ロシアのウクライナ侵略戦争

～関係国の経済的実態を中心に～

- I. 戦争関係各国のマクロ経済指標
- II. 関係国の経済実態～貿易関係を中心に～
- III. 戦争の関係国と世界への影響

2022年3月11日

大村 哲

1. 戦争関係各国の マクロ経済指標

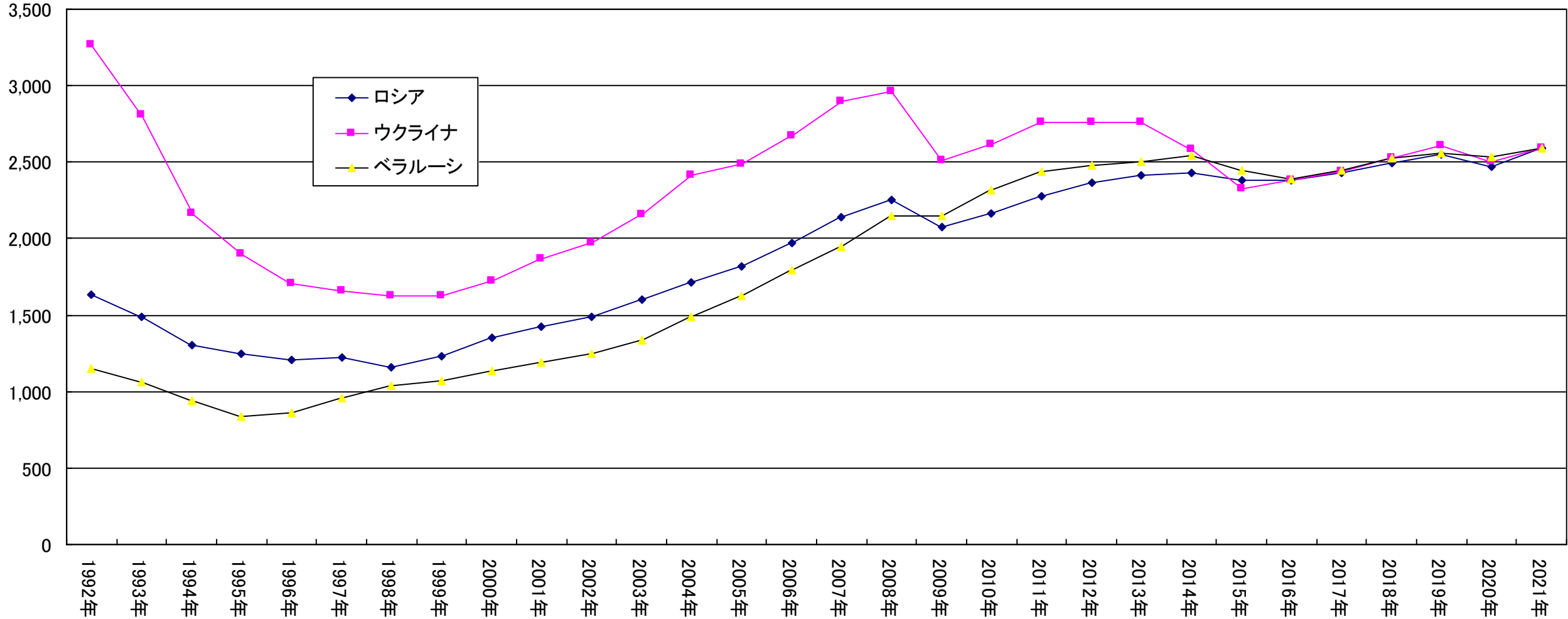
示一タ出典：IMF WEO Oct. 2021

情報出典：外務省HP

1. 各国通貨 (NC) GDP

出典：IMF WEO Oct. 2021

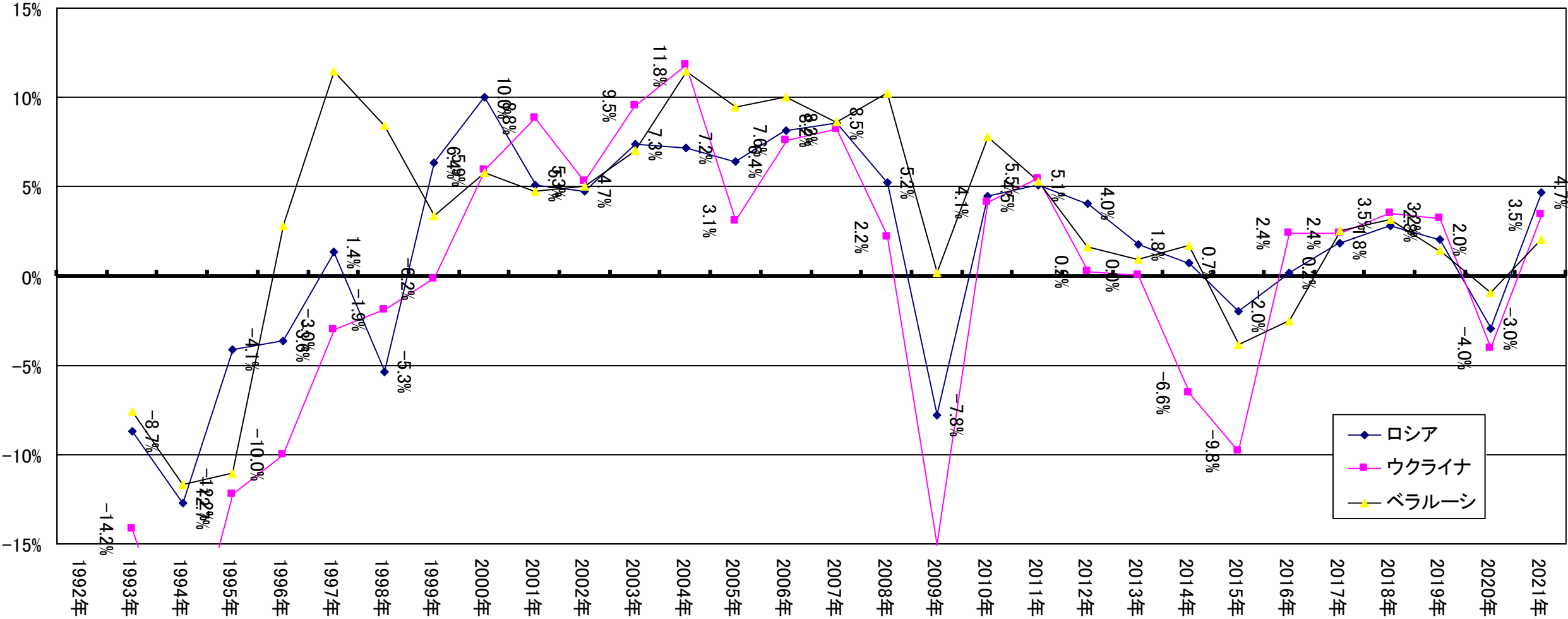
各国通貨(NC)GDP推移[正規化後]



[注] 推移比較のため規格化しています。ウクライナは現在よりGDPが高い時期があり、衰退が特徴。

2. (NC) GDP経済成長率

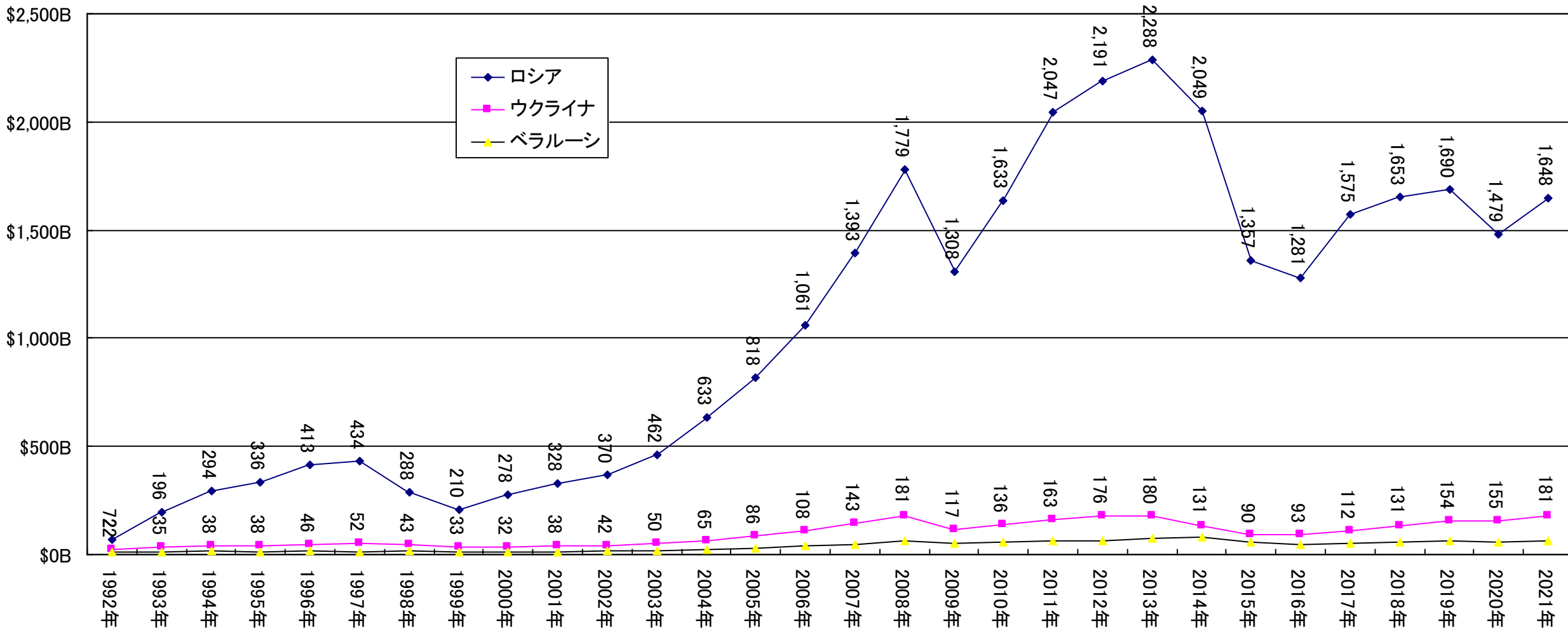
経済(GDP)成長率NC



ウクライナの経済成長率は、他国より乱高下が激しい。

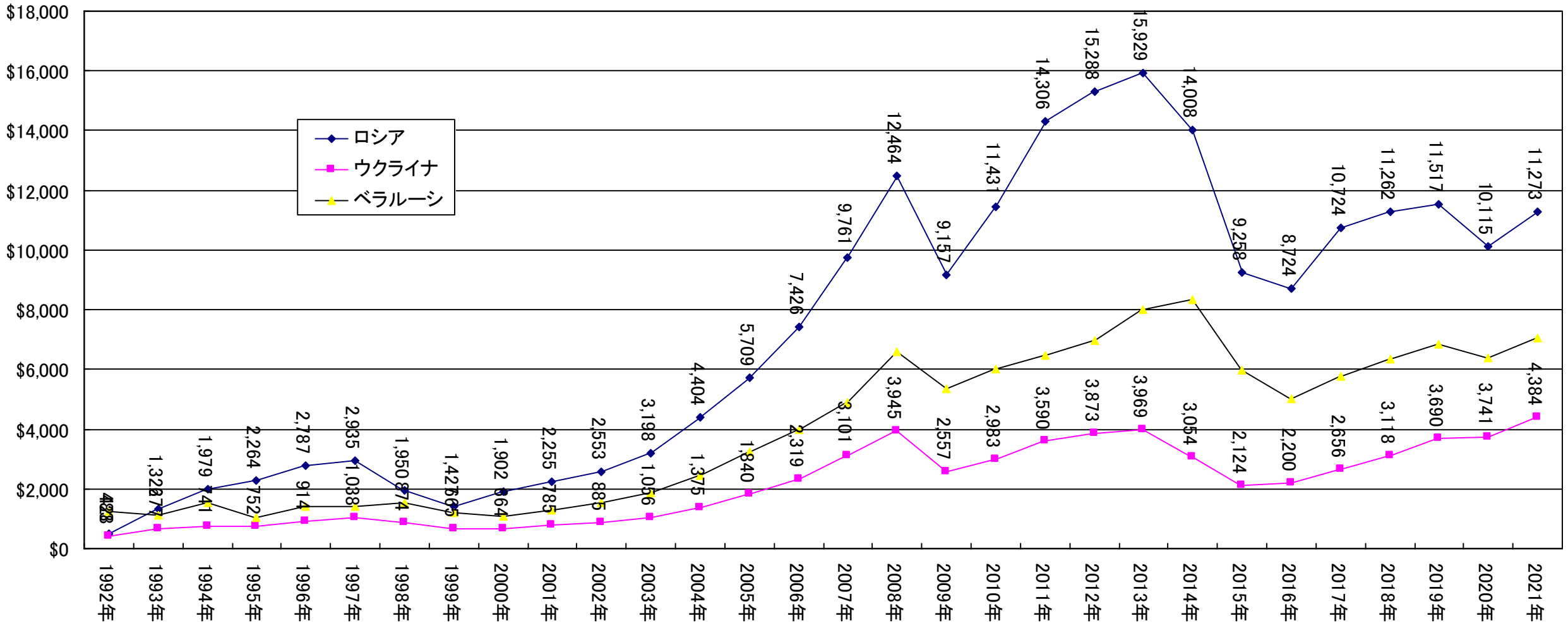
3. (US\$) GDP

各国(US\$) GDP



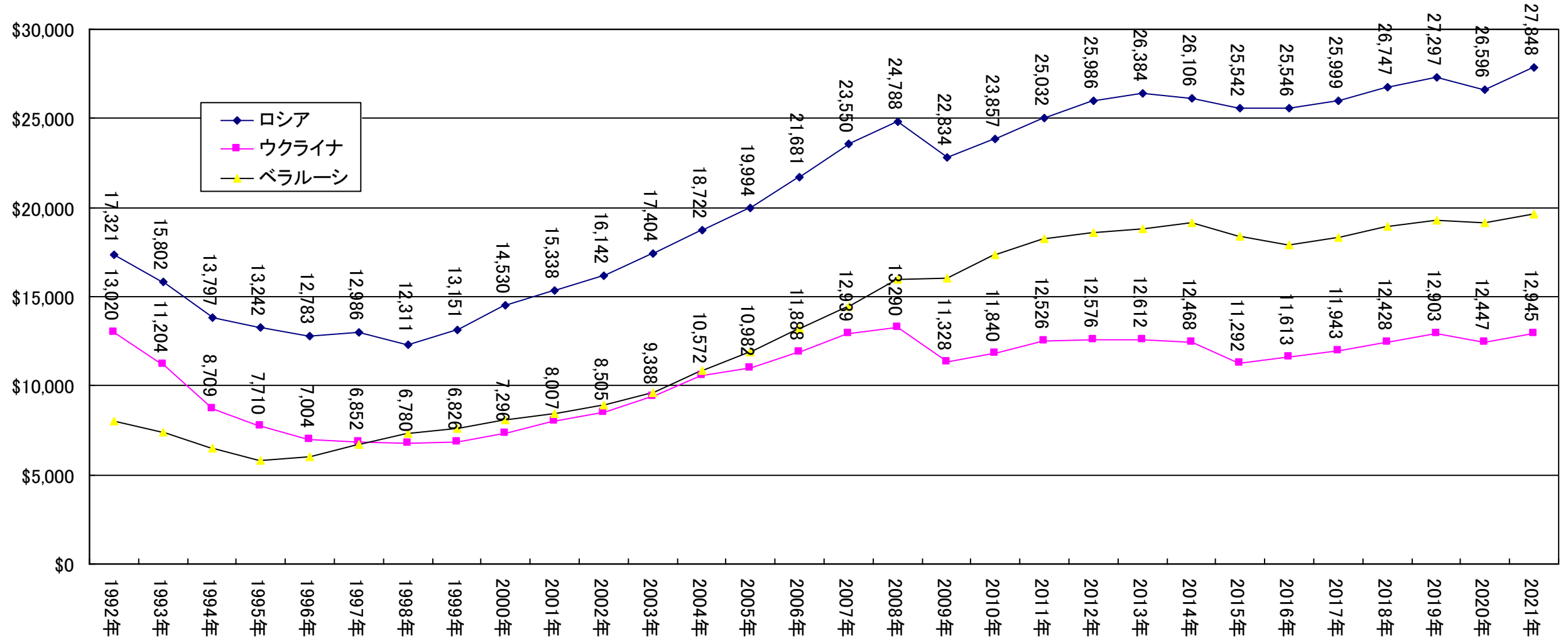
4. (US\$) GDP/人

GDP/人(US\$)



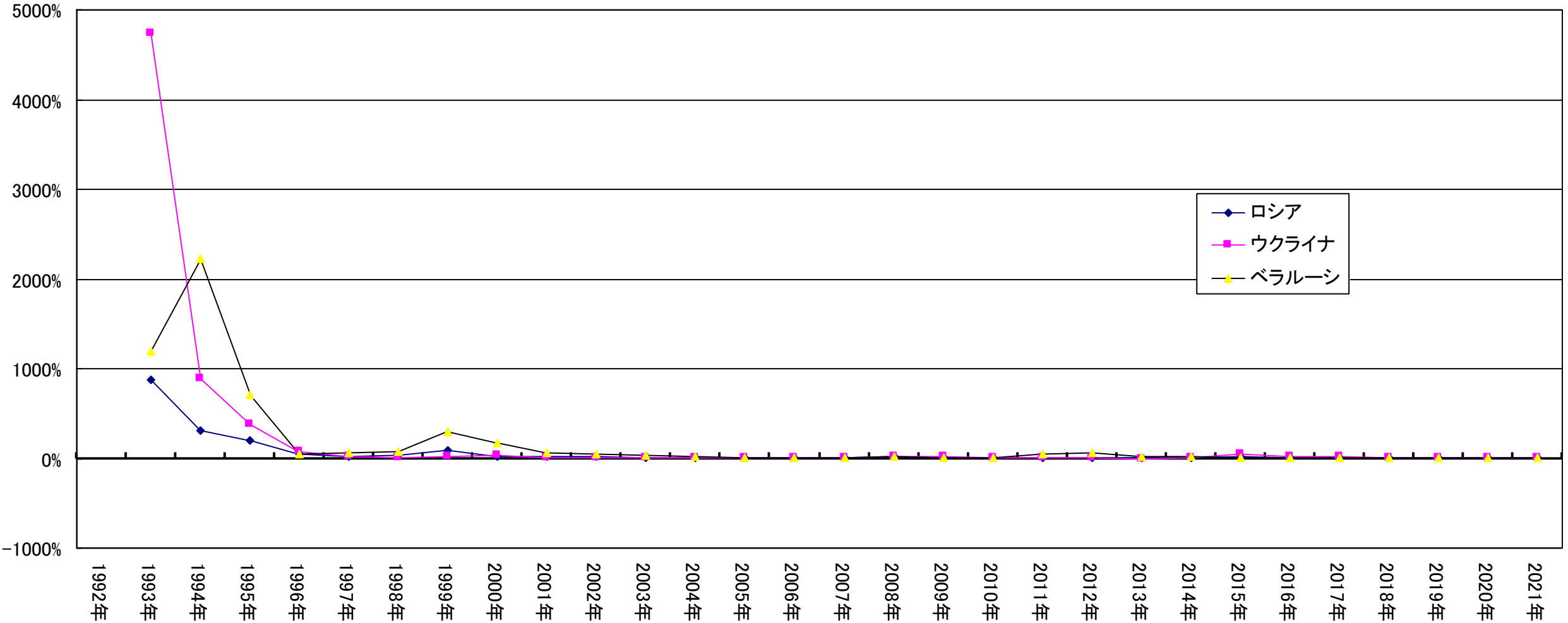
5. 購買力平価GDP/人

購買力平価GDP/人



6. インフレ率①

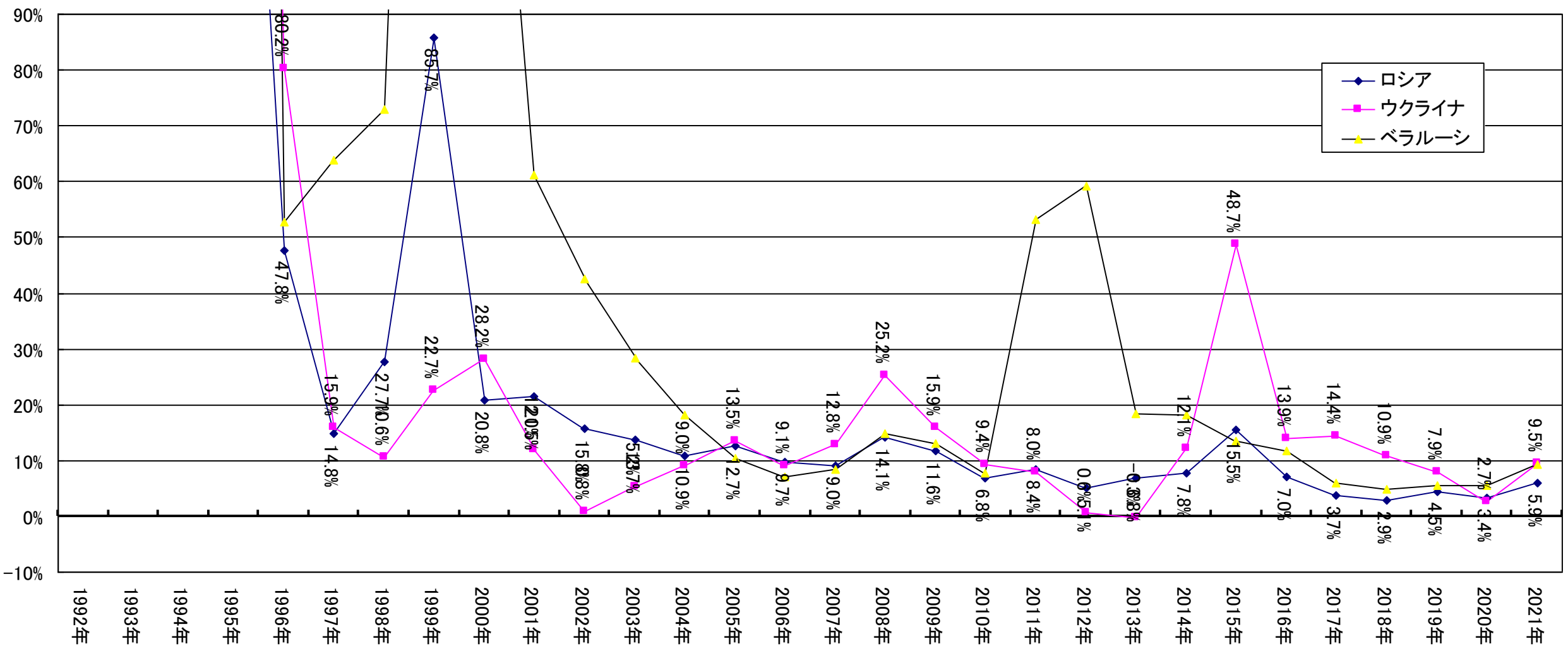
インフレ率



ソ連崩壊後は、各国ともに「ハイパーインフレ」に襲われた。

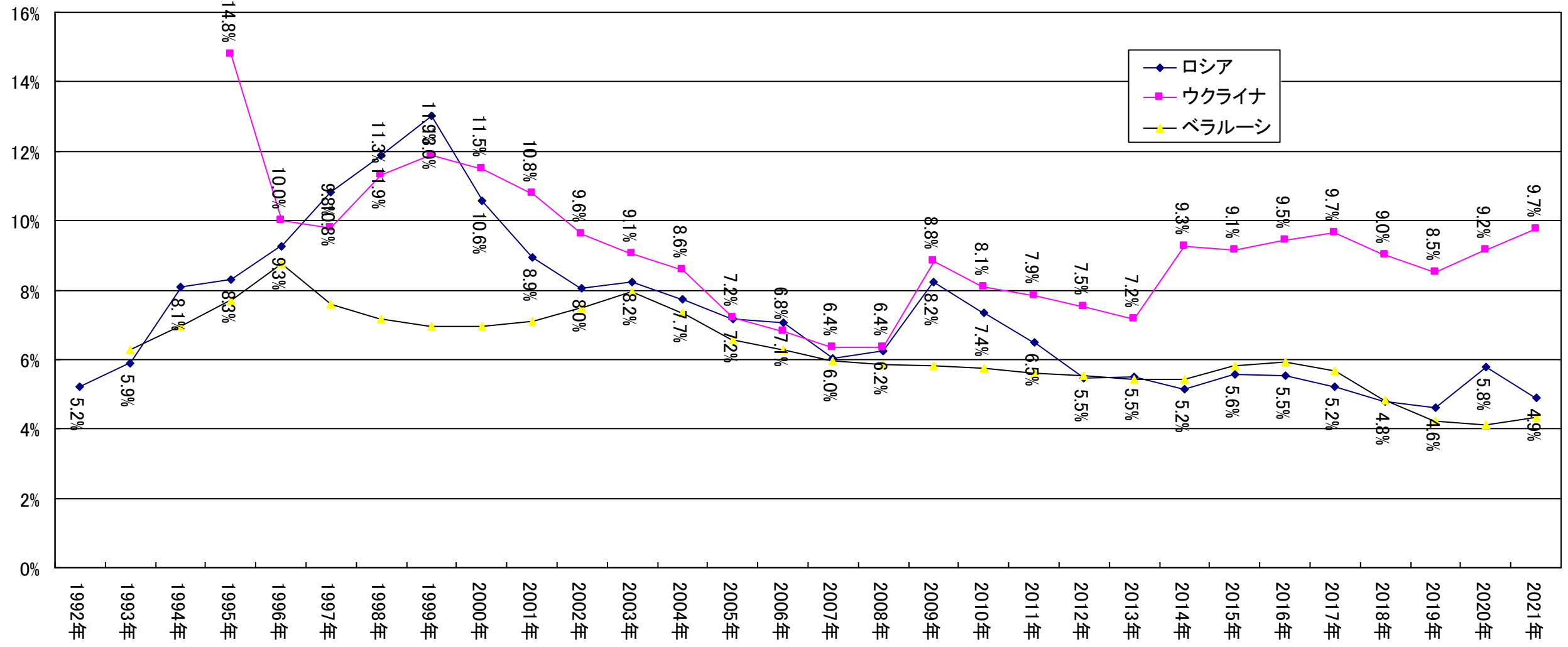
6. インフレ率②

インフレ率



7. 失業率

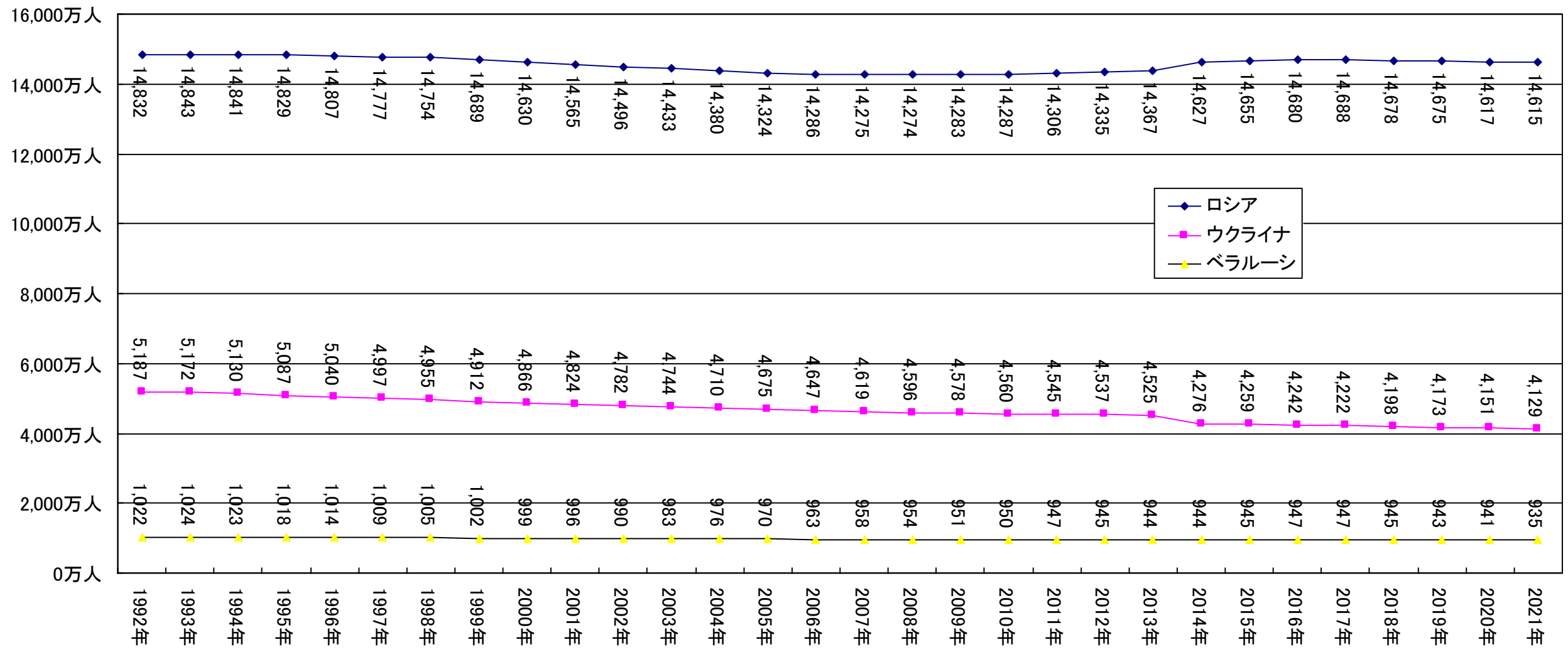
失業率



ウクライナの失業率は、他国よりも高い。

8. 人口

人口



30年間で、ベラルーシは約1割減、ウクライナは約2割減。

9. ロシア経済

1 主要産業

鉱業（石油，天然ガス，石炭，金，ダイヤモンド等），鉄鋼業，機械工業，化学工業，繊維工業

4 貿易（2017年）

(1) 輸出：3,519億ドル（燃料等鉱物製品，鉄鋼，貴金属等）

(2) 輸入：2,285億ドル（機械類，医薬品，衣類）

(3) 主な貿易相手国：

輸出：上位から中国，オランダ，ドイツ，ベラルーシ，トルコ，イタリア

輸入：上位から中国，ドイツ，米国，ベラルーシ，イタリア

6 経済状況（2018年3月）

石油・天然ガスなどの天然資源に経済的・財政的に依存するロシアでは、2015年，国際的な原油価格の低迷を受けて経済・財政状況が悪化した。

2014年以来，原油価格の低迷を受けて下落していたルーブルの対米ドルレートは油価の上昇に伴い2016年には徐々に回復し，2018年1月には2014年6月比で約58%まで回復。また，株価も2016年頭を底に，回復傾向。インフレ率は，2015年には食料品を中心に高い水準にあり12.9%であったが，2016年には5.4%，2017年は2.5%と落ち着きを見せている。こうした状況を受け，2016年の成長率は，2015年の成長率（マイナス2.8%）から改善し，マイナス0.2%となり，2017年は，1.5%のプラスとなった。

10. ウクライナ経済

1 主要産業（産業別構造比）

卸売・小売業、自動車・二輪車修理業（14.0%）製造業（10.1%）農業、林業、漁業（9.3%）行政・防衛・社会保障（7.2%）不動産業（6.4%）運輸・倉庫業（6.3%）情報・通信（5.0%）鉱業・採石業（4.5%）教育（4.3%）専門・科学・技術的活動（3.3%）

7 総貿易額

- (1) 輸出 492億ドル
- (2) 輸入 543億ドル

8 主要貿易品目

- (1) 輸出 穀物（19.1%）、鉄・鉄鋼（15.6%）、鉱石（9.0%）、電子機器（5.2%）
- (2) 輸入 鉱物性燃料（14.7%）、機械類（11.2%）、輸送機器（10.1%）、電子機器（10.1%）、医薬品（4.6%）

9 主要貿易相手国

- (1) 輸出 中国（14%）、ポーランド（7%）、ロシア（6%）
- (2) 輸入 中国（15%）、ドイツ（10%）、ロシア（8%）

10 経済関係

- (1) 日本の対ウクライナ貿易（2020年：財務省貿易統計）
 - (ア) 輸出 541.8億円 (イ) 輸入 568.8億円
- (2) 主要品目（2020年：ウクライナ国家統計局）
 - (ア) 輸出 自動車、機械・装置類、光学機器、医薬品、電気電子機器
 - (イ) 輸入 鉱石、タバコ、アルミニウム、水産物、化学製品、木材加工品
- (3) 進出企業（2021年8月） 38社
- (4) 日本からの直接投資（2021年6月末時点の累計：ウクライナ国立銀行）1億8,740万米ドル

11. ベラルーシ経済

- 1 主要産業（産業別構造比）（2018年：ベラルーシ共和国国家統計委員会）
工業（21.3%），商業（10.0%），農林・水産業（6.6%），運輸・物流業（5.9%），
不動産業（5.6%），情報通信業（5.4%），建設業（5.3%）
- 7 総貿易額（2018年：ベラルーシ共和国国家統計委員会）
 - (1) 輸出 332億ドル
 - (2) 輸入 359億ドル
- 8 主要貿易品目（2018年：ベラルーシ共和国国家統計委員会）
 - (1) 輸出 鉱物（26%），化学製品・ゴム（19%），機械・輸送機械（17%），食料・農産（15%）
 - (2) 輸入 鉱物（30%），機械・輸送機械（24%），化学製品・ゴム（14%），食料・農産（11%）
- 9 主要貿易相手国・地域（2018年：ベラルーシ共和国国家統計委員会）
 - (1) 輸出 ロシア（38%），EU（30%）ウクライナ（12%）
 - (2) 輸入 ロシア（53%），EU（17%）中国（8.0%）

12 経済概況

大型の国営企業が温存された旧ソ連的な管理経済体制を維持。旧ソ連時代の技術で比較的競争力のある工業製品（家電製品，トラクター，大型自動車，タイヤ等）の生産及び石油精製品・カリウム肥料の輸出で経済成長を維持してきたほか，近年はIT産業も発展している。一方，2008年には，経済危機によりIMF等に支援を要請。世界的に原油価格が下落したことにより，輸出市場の大半を占めるロシア経済が落ち込み，ベラルーシ経済にとって大きな打撃となった。最近では，2016年3月，ロシア主導のユーラシア安定化発展基金が，ベラルーシに対し3年間で20億ドルの融資を決定。なお，2016年7月には1/10000のデノミを実施した。

12. 経済指標まとめ

(出典: ILO Web)

雇用労働者産業別割合 (2020年)			
	第1次産業	第2次産業	第3次産業
ロシア	6.0%	26.5%	67.5%
ベラルーシ	10.9%	30.6%	58.5%
ウクライナ	15.4%	24.3%	60.3%

(出典: IMFなど)

	ロシア	ウクライナ	ベラルーシ
GDP	164,757億ドル	18,104億ドル	6,575億ドル
GDP/人	11,273ドル	4,384ドル	7,032ドル
経済成長率	4.7%	3.5%	2.1%
物価上昇率	5.9%	9.5%	9.2%
失業率	4.9%	9.7%	4.3%
輸出額	3,519億ドル	492億ドル	332億ドル
輸入額	2,285億ドル	543億ドル	359億ドル

13. マクロ経済指標分析の結論

- (1) ウクライナGDPは、現在よえ過去の方が高い時期があった。経済運営に失敗している。
- (2) 軍事力で、ロシアと圧倒的な差があるのは当然ですが、経済力でも、ウクライナはベラルーシよりも下位に位置づけられる。
- (3) 具体的には、一人当たりGDP(US\$)、一人当たり購買力平価GDPも、ロシアとベラルーシを下回っている。
- (3) インフレ率は、ソ連崩壊後1995年ごろまでは、3ヶ国共にハイパー・インフレに見舞われが、現在ではそれも落ち着いている。だが、ウクライナは平均的にロシアやベラルーシよりもインフレ率が高い傾向にある。
- (4) 失業率は、ウクライナが高い。
- (5) 人口は、3ヶ国共に減少傾向ですが、30年でベラルーシが10%減に対して、ウクライナが20%減と人口減少が激しい。今回の戦争で、さらに人口減少に拍車がかかるものと思われる。
- (6) 貿易依存先で注目すべきが、ベラルーシはロシア依存が1位なのに対して、ウクライナは中国依存が1位になっていて、ロシア依存は3位になっている点。

II. 関係国の経済実態 ～貿易関係を中心に～

**データ出典：在ウクライナ大使館HP
：在ロシア大使館HP**

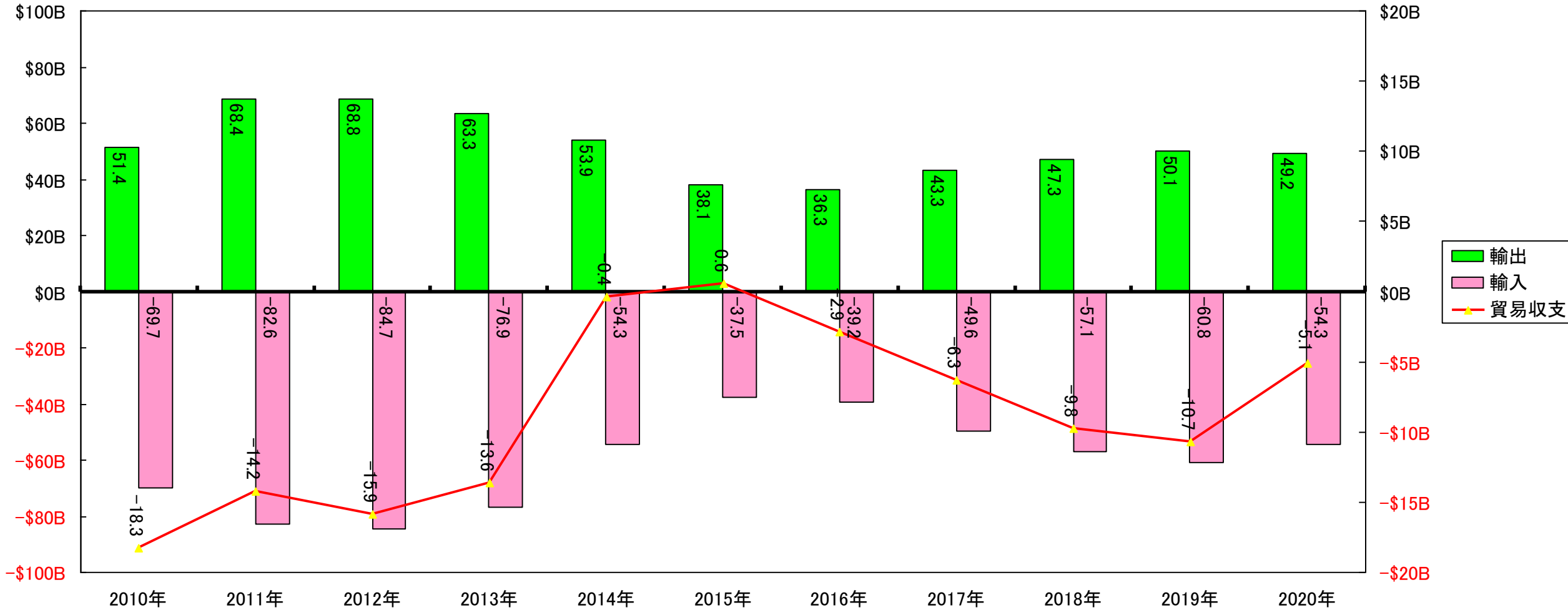
ウクライナ



1. (1) ウクライナの貿易収支

出典：ウクライナ国家統計局

ウクライナの貿易収支



ウクライナは、貿易赤字が基調

1. (2) 主要輸出入品目と貿易相手国

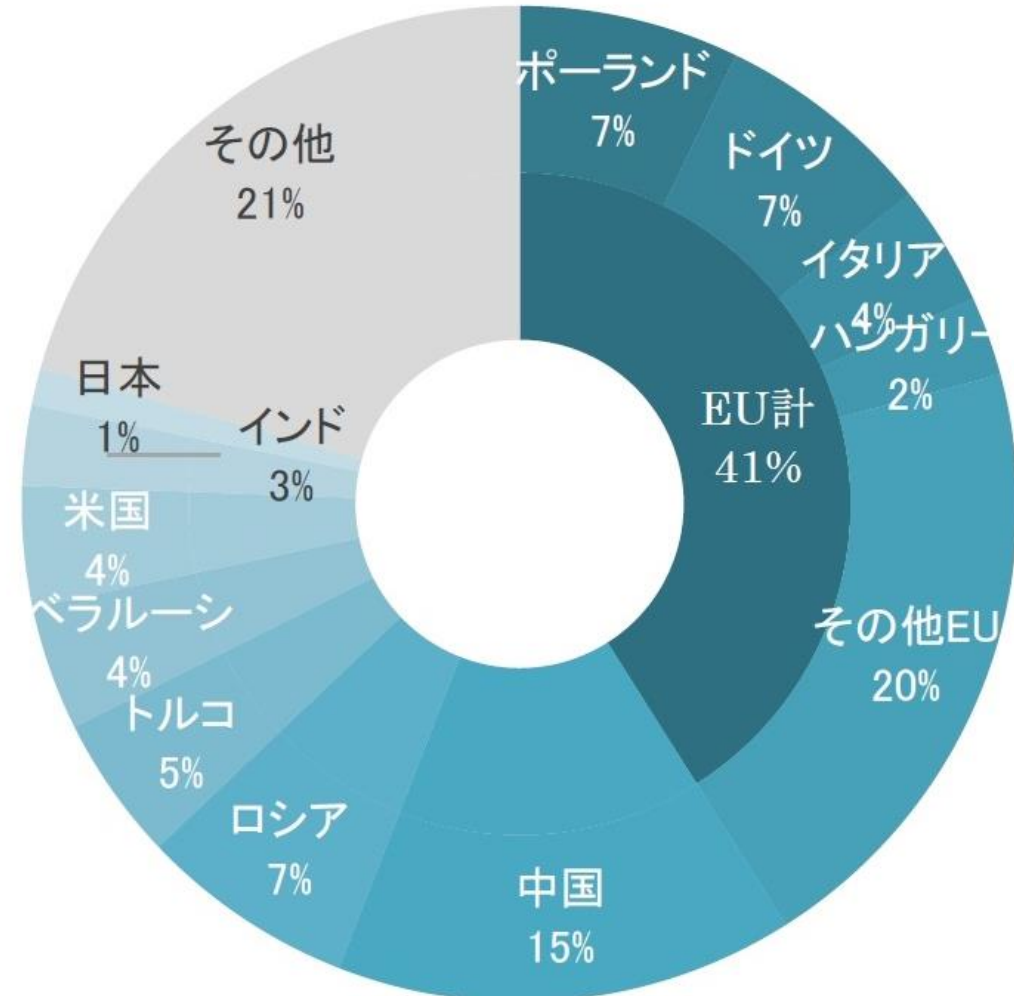
(2020年)輸出

品目	金額	シェア
穀物	\$9,410.7M	19.1%
鉄鋼	\$7,690.6M	15.6%
鉱石	\$4,420.7M	9.0%
電子機器	\$2,572.4M	5.2%
機械類	\$1,914.2M	3.9%
その他	\$23,250.1M	47.2%

(2020年)輸入

品目	金額	シェア
鉱物性燃料	\$7,982.4M	14.7%
機械類	\$6,076.5M	11.2%
輸送機器	\$5,506.7M	10.1%
電子機器	\$5,476.2M	10.1%
医薬品	\$2,523.2M	4.6%
その他	\$26,803.8M	49.3%

2020年の貿易相手国とシェア



1. (3) ウクライナへの直接投資額

(出典：不明)

ウクライナへの 直接投資額	2015年	2019年	2020年
	\$43.8B	\$51.4B	\$49.7B

(出典：ウクライナ中央銀行)

2020年の主要投資国

投資国	直接投資額	シェア
キプロス	\$17.12B	31.21%
オランダ	\$11.63B	21.20%
スイス	\$3.35B	6.10%
ドイツ	\$2.75B	5.00%
英国	\$2.70B	4.91%
日本	\$1.87B	0.34%
合計	\$54.88B	100.0%

[注] 値が異なっているが、統計の出所が異なるので、大体こんな感じ、と解釈すべき？

1. (4) ①ウクライナ経済の問題点

出典：在ウクライナ大使館
「ウクライナ概観」

(駐ウクライナ日本国大使館「ウクライナ概観」から)

1. ウクライナ経済の基盤

- ・ソ連時代のウクライナは、連邦内の分業体制の中で、鉄鋼、造船、航空宇宙産業等の軍需産業、穀物生産を担っていた。

2. ウクライナ経済の略史

(1) 独立～1998年

- ・1991年8月のウクライナ独立後、価格及び貿易の自由化に代表されるショック療法の結果、ハイパーインフレが巻き起こった。

(4) マイダン革命以降

- ・対外債務等の財務状況や国際収支状況は危機的水準に陥り、2015年のGDP成長率は-9.8%、インフレ率は48.7%を記録した。

3. 天然ガス関連

- ・2014年のマイダン革命を経て、ウクライナはロシア産ガス欧州向け供給の輸送は維持しつつ、国内向けにロシア産ガスの輸送は停止した。

【2006年のガス紛争】

【2009年のガス紛争】

【ストックホルム仲裁裁判所におけるナトガス・ガスプロム間の訴訟】

【国内の天然ガス部門の改革】

【ウクライナ経由の天然ガス輸送とノルドストリーム2】

と解説が続いている。

4. IMFとの関係

- ・2008年10月、国際的金融危機のウクライナへの波及や、国際収支の急激な悪化等を背景に、IMFは約164億ドルのSBA（期間2年）を決定。特に、中央銀行の為替政策を含む金融部門の早急な立て直しが課題とされた。

1. (4) ②ウクライナ経済の問題点

出典：在ウクライナ大使館
「ウクライナ概観」

(駐ウクライナ日本国大使館「ウクライナ概観」から)

5. 対外債務問題

- ・ 2014年2月に発足したトルチーノフ新政権は、2013年末時点でのウクライナの対外債務残高がGDPの約80%に相当する約1400億ドルに達していたと発表。

6. 非公式経済（闇経済）

- ・ ウクライナ闇経済の対GDP比の水準は、2014年の36%から一貫して減少し、2019年は**27%**となったが、2020年は**30%**まで再上昇した。

8. 主要産業とその課題

(2) 重工業

- ・ 鉄鋼業以外でも、旧ソ連時代には工業化が進み、ウクライナは高い技術力を備えた軍需コンピナートとして発展した。
- ・ 旧ソ連じだいには空母ミンスクをはじめ多くの空母や潜水艦がここで建造された。
- ・ 世界最大の輸送機アントノフ社の「ムーリヤ」、日本の衛星の打ち上げ実績もある商業ロケットの「ドニプロロケット」を製造している。

(3) 民営化

- ・ 1992年に民営化法が施行されて以降、90年代に6万社以上の国営企業を清算・売却した。
- ・ しかし、多くは透明性に欠けるプロセスで、**ウクライナ・オンガルヒ形成の一因となった。**
- ・ 現在でもウクライナには旧ソ連諸国の中でも多い**約3500社の国有・地方政府保有企業が残り、大規模企業の民営化が遅れている。**

ロシア



2. (1) ロシア国内経済

●エネルギー分野

(0) 国家歳入に占めるエネルギー分野は**36%**

(1) 原油：米国7.46億トン、ロシア5.68億トン（世界2位）

(2) 天然ガス：米国9200億m³、ロシア6790億m³（世界2位）

(4) 天然ガスパイプライン：①ウクライナ経由がトラブル中、②トルコストリーム2020年1月稼働、③中国向け「シベリアの力」2019年12月稼働、④欧州むけ「ノルドストリーム2」は米国の反対で完成間近だが非稼働。

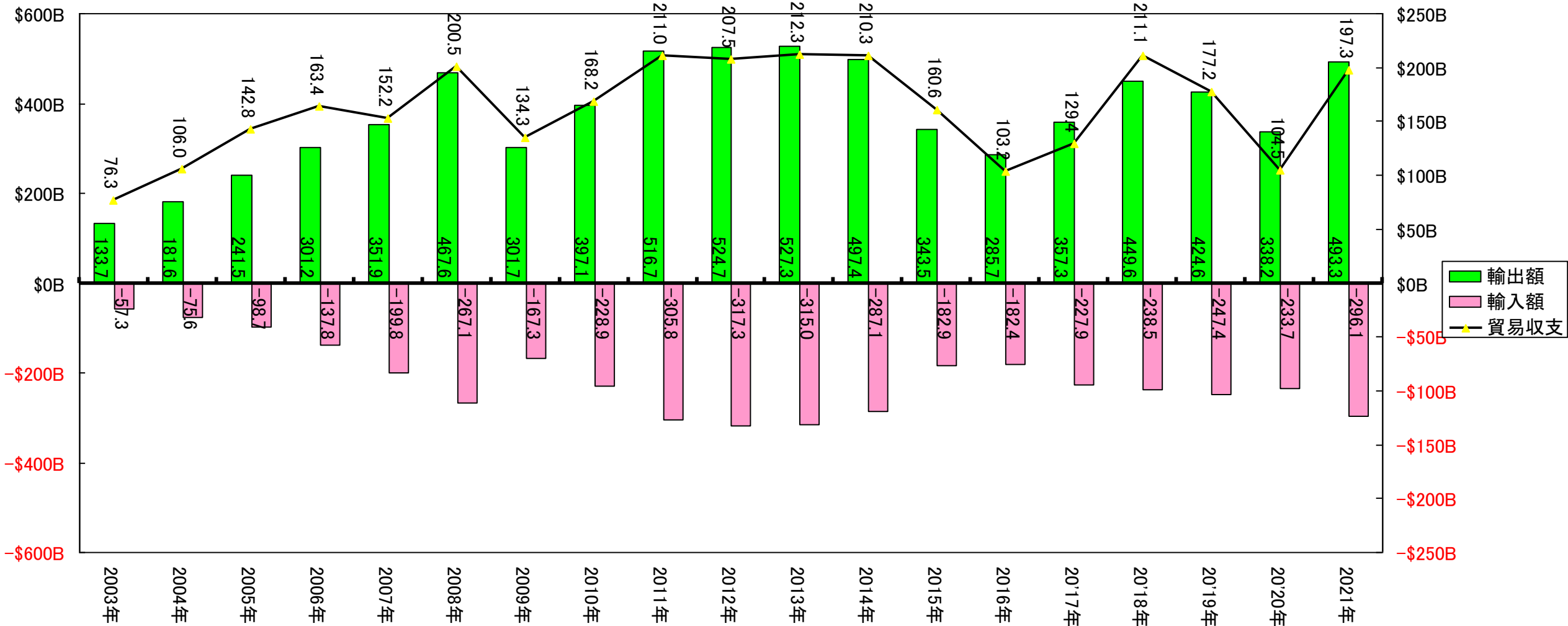
●製造業分野（シエア**13.3%**）

コークス・石油製品23.3%、製鉄13.7%、食料品等13.0%、輸送機器・機械10.6%、化学製品7.3%、機械装置2.8%、電機2.2%

●鉱業分野（シエア**10.3%**）

2. (2) ロシアの貿易収支

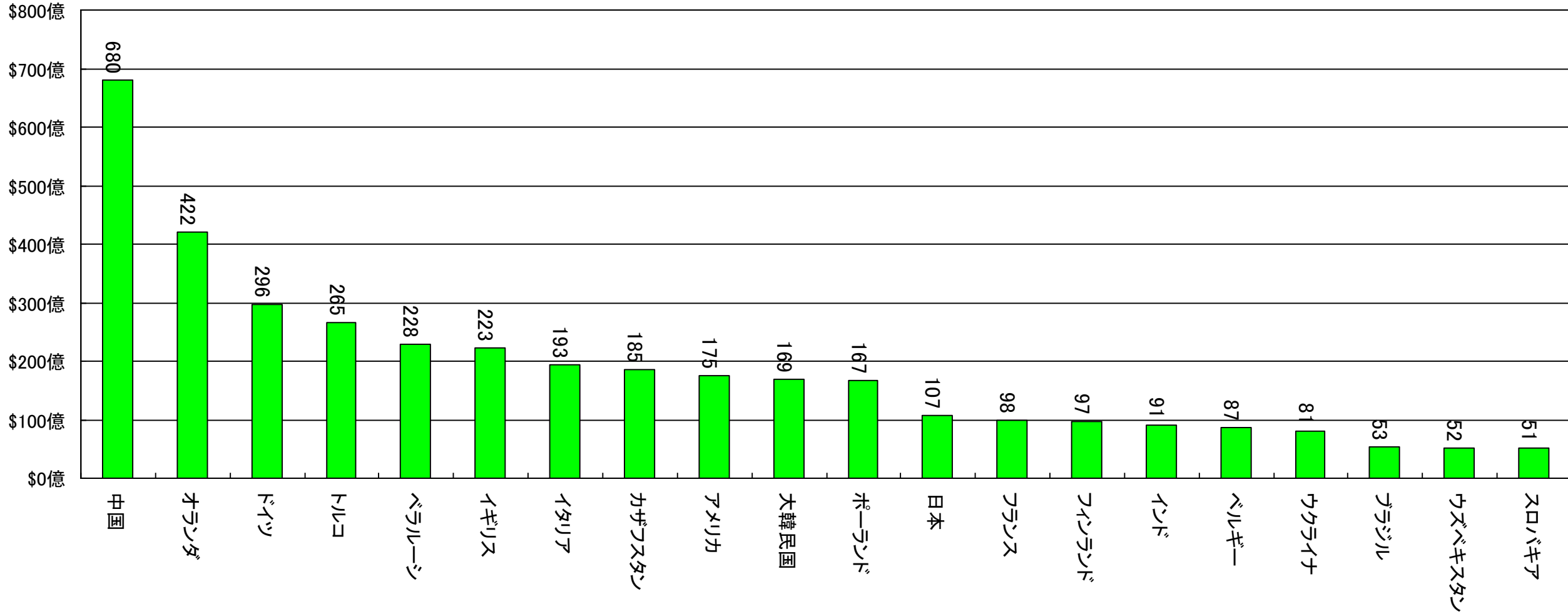
ロシアの貿易収支



ロシアは、貿易黒字が基調

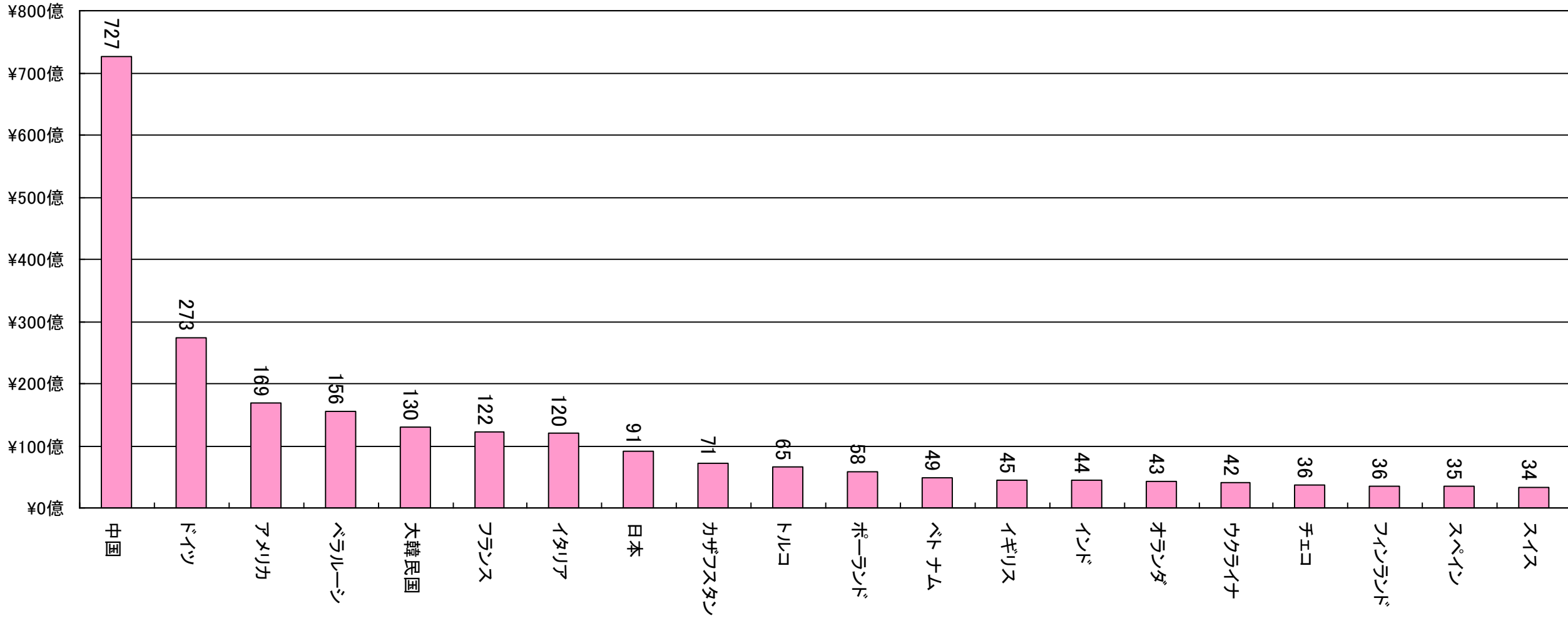
2. (3) ロシアの輸出相手国順位

ロシアの輸出額(国順位)



2. (4) ロシアの輸入相手国順位

ロシアの輸入額(国順位)



2. (5) ロシアの世界貿易

(1) ロシアの輸出品目：

原油(18.9%),天然ガス(14.7%),石油製品(14.4%),
自動車(8.0%),鉄鋼(4.9%),石炭(4.2%),アルミニウム(1.8%),
小麦(1.7%),肥料(1.4%),LNG(1.0%)

(2) ロシア輸入品目：

機械装置(18.7%),電気機器(14.0%),自動車・自動車部品(5.3%),
プラスチック類(4.1%),医薬品(3.1%),衣料品(2.2%),鉄鋼(2.0%)

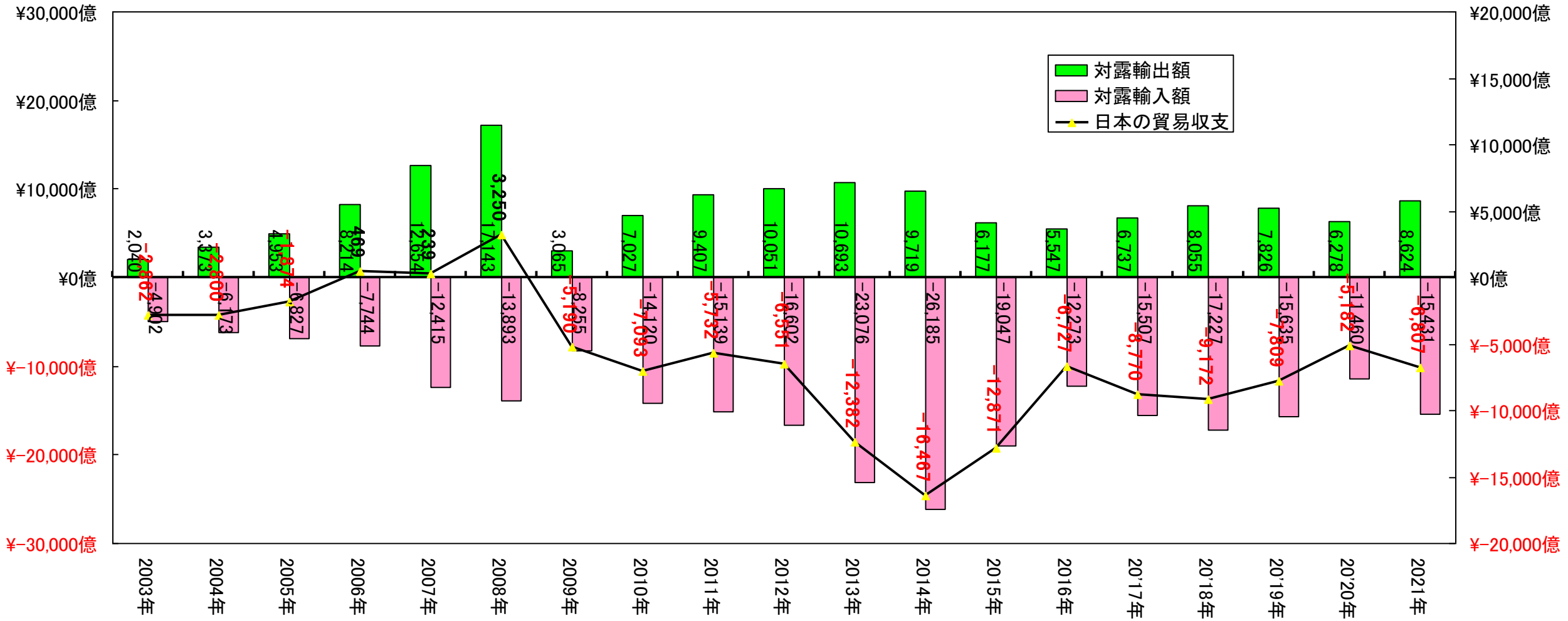
(注) 欧州の化石燃料ロシア依存度：

天然ガス：EUは4.5割,独伊は約5割, 石油：EUは約3割, 石炭：EUは約5割

⇒制裁といっても、禁輸できず、貿易決済のためSWIFTも抜け穴だらけ

2. (6) 日本の円建て対ロシア貿易

日本の円建て対露貿易



日本は、ロシアから輸入超過

2. (1) ロシアの対日貿易

(1) ロシアから日本への輸入（グラフも参照）

- ①石油28.3%、②液化天然ガス24.6%、③石炭16.8%、
- ④白金7.8%、⑤石油製品5.0%

(2) 日本からロシアへの輸出

- ①乗用自動車22.9%、②自動車部品14.4%、③自動車車体5.3%、
- ④ブルドーザー等4.7%、⑤ゴム製タイヤ4.5%

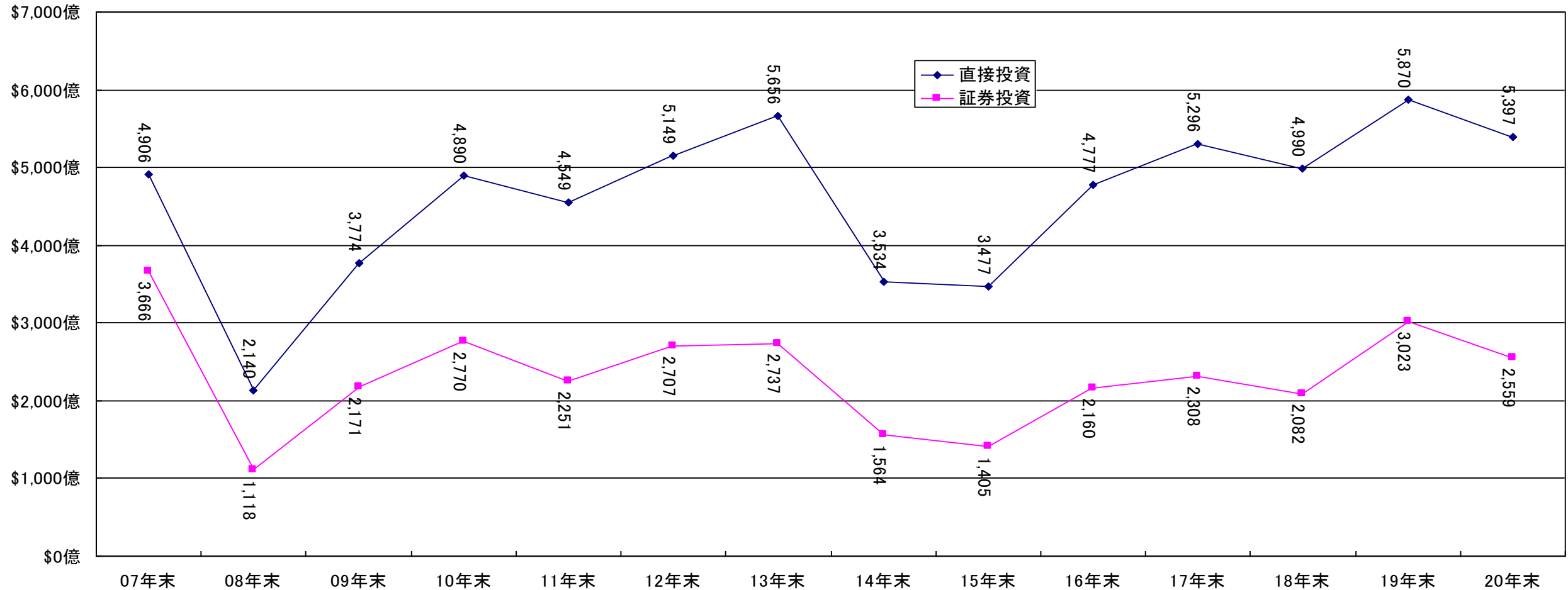
(注) わが国の化石燃料のロシア依存度

天然ガス9.3%、石油4.1%、石炭6.5%

※ロシアのウクライナ侵略により、エネルギー価格も上昇する
日本国内のあらゆる産業・国民生活に影響が出てくる

2. (8) ロシアへの投資残高

ロシアへの投資残高推移



ロシアへの直接投資残高、国別ランキングと(シェア)

①キプロス(28.6%),②バミューダ(8.9%),③蘭(8.7%),④英(7.8%),⑤ルクセンブルグ(6.0%),⑥アイルランド(5.6%),
⑦バハマ(4.4%),⑧仏(3.6%),⑨独(3.5%),⑩スイス(3.1%)・・・⑬米(0.9%)・・・⑳日本(0.4%),㉑中国(0.4%)

The background of the slide features the United Nations logo, which consists of a white map of the world centered on the North Pole, surrounded by a laurel wreath, all set against a blue background.

III. 戦争関係国と 世界への影響

1. ロシアの侵攻をまねいたウクライナの課題

- 当面の動きから（状況がどんどん変化しているが…）
 - ・ ウクライナは準破綻国家だったのか？（IMFのSBAを何度も受けているが…）
 - ・ 闇経済の存在。3500社の国有企業が残存。ウクライナ・オリガルヒの存在
 - ・ 親露政権／反露親欧政権で揺れ動いた国家（政治の未熟）
 - ・ ゼレンスキー政権は、微妙な政治力学が働く旧ソ連圏にあって、ロシアを刺激し、慎重に行動すること怠ったのでは？
 - ・ 義勇兵／傭兵の参加（戦争のチェチェン紛争化？）
- ウクライナはロシアに占領されるのか
 - ・ 日本の国土の1.6倍の面積だが、平地が多く平定しやすい地形
 - ・ その広い国土を軍事的に制圧し続けるコストをロシアが負担し続けられるか（ソ連によるアフガニスタン戦争の二の舞？）
 - ・ 歴史的には、①13世紀モンゴル軍がキエフ攻略、②14世紀にポーランドが東ガリツィア地方を占領、リトアニアがキエフを占領、③第二次世界大戦で独軍がウクライナの大半を占領、などがある

2. ウクライナを侵略したロシアの課題

- 近親憎悪（旧ソ連圏には手出しして良いとの認識）
（ジョージア（旧グルジア）でも同様に）
- 米国のイラク侵攻と同じ、デッチアゲ理由でウクライナに侵攻
- 各国の制裁は、ロシアにどれだけ効くのか
（天然ガス・原油高でロシアが儲けるだけなのでは？）
 - ・SWIFT排除、・資産凍結、・オリガルヒ制裁、・各国の事業撤退
（ロシアから原油・天然ガスを買っている国もあり、抜け道ありすぎ）
- ロシア兵死者数公表値の差（ウクライナ側とロシア側）
（ロシア3/2:498人。米国防情報局長:2千~4千人）

3. ロシアを支援したベラルーシの課題

- 1994年から続くルカシェンコ政権
(その間、ロシアとの関係は必ずしも順風満帆ではなかった)
- 大統領選挙で対立候補が政権に拘束されるなど、野党を弾圧
(2020年8月～反政府デモが発生)
(2021年5月23日、ギリシャ⇒リトアニアの旅客機を、ミンスクに強制着陸)
⇒西側のベラルーシに対する世論は悪化するばかり
- 当面は、ロシア経済圏でなんとか生き延びて行けるが、
⇒将来の国の行方は厳しい

4. 今後の世界秩序にどう影響しそうか

◎デカップリングがますます進む

(各国の相互依存が世界の現状なのに、地域の部分力学が顔を効かす)

◎軍備増強競争が新たなステージに

- ・ドイツ国防費の2倍化
- ・オーストラリア国防費も2倍化
(中国の台湾侵攻を念頭に、与野党共に賛成)
- ・フィンランド、スウェーデンもNATO加盟？

◎国連の機能マヒ？

- ・第2次世界大戦後の国際秩序が挑戦を受けている
- ・サラエボ事件から出発した第1次世界大戦、
- ・第2次世界大戦は、先進帝国主義と後進帝国主義の戦いだった
- ・WW2後に比べ、ロシアが世界における経済的地位を低下させた(軍事力は依然として大)
- ・ウクライナ戦争は、第3次世界大戦への序曲か？
- ・安保理改革、国連改革を、世界の国が実行し「自己改革」できるのか

エピローグ

マスコミ報道を見ていると、政治的には「ロシアが国際法を破っている」ことは明白だ。この戦争が局地的なものなのか、世界的なものなのかについては、ロシア側の意図と西側の解釈が異なっている。ロシアの言い分も、公式発言と実態は異なっている。民間人、民間施設への無差別爆撃を行っている。

ウクライナへの軍事支援において、戦闘機のウクライナへの提供をみても、西側は及び腰である。どの国もロシアの敵になりたくない。そういう中で、西側各国は、ロシアとベラルーシに「経済制裁」を課そうとしている。

本資料でも明らかにしたように、世界各国は「相互依存関係」にある。だから、「経済制裁」も限定的な効果しか生まない。

私は、経済的な基礎の上に政治（戦争）が現象していると考えている。だが、私は自然科学系の人間なので、その関係を分析する能力を持っていない。

私は、私の問題意識を書かせていただいた。政治や軍事に強い方々が、それぞれの問題意識でさらなる分析を進められることを期待したい。

参照情報源

IMF WEO DB

<https://www.imf.org/en/Publications/WE0/weo-database/2021/October>

日本国外務省HP

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>

在ウクライナ日本国大使館「ウクライナ概観」

<https://www.ua.emb-japan.go.jp/files/000504844.pdf>

在ロシア日本国大使館「ロシア概観」

<https://www.ru.emb-japan.go.jp/APP/202008.pdf>

在ロシア日本国大使館「ロシア基礎統計」

https://www.ru.emb-japan.go.jp/itpr_ja/jabout.html

在ベラルーシ日本国大使館

https://www.by.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html